

授 業 科 目 区 分	実習科目	開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	教育政策トップリーダーインターンシップⅠ（海外教育行政機関） （ Internship for top leaders of educational policy Ⅰ－ Internship in overseas educational administration agencies ）		
単 位	2単位	担 当 教 員	日 渡 円 堀内 昭彦 押田 貴久
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	実習		
標 準 履 修 年 次	1年次		
開 講 学 期	通年		
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	教育政策・行政のトップリーダーに求められる能力・力量を向上させ、また国際的な知見を大きくするために、海外の教育行政機関、教育機関の制度、組織、運営を見聞、体験させることを目的とする。 もって受講生の日本の教育、教育行政に対する見識を外国との比較によって相対化し、トップリーダーとしての課題解決力の拡充を図る。		
授業の内容・計画	事前指導	受講者各自でインターンシップ課題を設定し、訪問国の教育制度、教育行政システムについて文献や資料等をもとに、調査項目を作成する。（全員）	
	実習	海外（フィンランド）の大学、教育委員会、小中学校等を訪問する。各機関において、そこでのリーダーの業務参観・分析、意見交換・交流を行う。 ※令和4年度は、令和5年1月30日(月)～5日(日)に、フィンランド国を訪問する。 (主担当・引率者は日渡・押田)	
	事後指導	受講生各自が設定したインターンシップ課題の実地における達成についてレポートを作成する。受講生各自の作成した報告書を発表し、相互に検討し、日本の教育、教育行政の特質、問題点、改革改善課題を検討する。（全員）	
成績評価の方法・観点等	「インターンシップ報告書」（50％）、「インターンシップ中の積極度」（30％）および「国内授業における参加度」（20％）		
テキスト・教材・参考書等	特に指定しない。必要な資料は適宜配付する。		
事前事後学修	訪問予定国の教育制度ならびに教育行政システムを中心に種々の情報収集を行い、調査項目を作成する。インターンシップ課題の実地における達成をふりかえりレポートを作成する。勤務先等へフィードバックをする。（全30時間）		
そ の 他	・本科目では、1週間程度、海外教育行政機関等（フィンランドを予定）を訪問します（渡航・滞在費用は自己負担となります）。 ・「比較教育政策論」と同時に登録することはできません。 ・アクティブ・ラーニング実施科目 ・授業連絡は、Live Campus 等を用いて行う。 ・授業は原則「対面」で実施するが、状況に応じて「オンライン（同時双方向）」または「ハイフレックス型（対面とオンライン（同時双方向）の併用）」で実施する場合もある。 ・尚、受講生の状況に応じて、講義・演習の内容を変更することもある。		

授 業 科 目 区 分	実習科目	開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	教育政策トップリーダーインターンシップⅡ（自自治体行政機関） (Internship for top leaders of educational policy — In administration agencies of self-local government)		
単 位	2単位	担 当 教 員	堀内 昭彦 押田 貴久 日渡 円
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	実習		
標 準 履 修 年 次	2年次		
開 講 学 期	通年		
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	自自治体行政機関において、共通基礎科目並びに専門科目で学修した事項を受講生のキャリアに応じ、実地で検証し、教育政策トップリーダーとしての力量を高める。		
授業の内容・計画	事前 指導	自自治体行政機関の組織や教育大綱・計画や施策について情報収集を行い、教育政策上の課題を整理すると共に、実習課題を設定する。（全員）	
	実習	インターンシップ先において、「マネジメント特論」又は「リーダーシップ特論」で学修した実践的応用力をもとに、施策や事業等の改善に取り組む。（全員）	
	事後 指導	インターンシップ先での取組をふりかえり、まとめを行う。（全員）	
成績評価の方法・観点等	1. 成績評価の方法と項目 ・実習における活動の状況や意欲・能力、貢献度などを大学指導教員（50％）並びにインターンシップ先メンター（50％）による観察や実習記録、面談等を通じた評価をもとに総合的に判断する。 2. 成績評価の観点 ・実習生の活動の状況 ・インターンシップ中に発揮された意欲や能力 ・「マネジメント」・「リーダーシップ」の各項目の達成度 ・インターンシップ先への貢献度 3. 到達目標： ・自自治体行政機関において、共通基礎科目並びに専門科目で学修した事項を受講生のキャリアに応じ、実地で検証し、教育政策トップリーダーとしての力量を高めること。		
テキスト・教材・参考書等	・「教育行政マネジメント特論Ⅰ・Ⅱ」及び「教育行政リーダーシップ特論Ⅰ・Ⅱ」のテキスト ・その他実習、協議等に有用な参考資料、文献等はその都度提示する。		
事前事後学修	・インターンシップ先の情報を事前に収集しておくこと。 ・実習のふりかえりとまとめを勤務先等へフィードバックすること。（全30時間）		
そ の 他	・2年次前期の設定であるが、内容、時期等は受講者のキャリアや関心に応じて、オリエンテーション時に相談し決定する。		

授 業 科 目 区 分	実習科目	開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	教育政策トップリーダーインターンシップⅢ（自自治体教育機関） （ Internship for top leaders of educational policy — In educational organizations of self-local government）		
単 位	2単位	担 当 教 員	堀内 昭彦 押田 貴久 日渡 円
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	実習		
標 準 履 修 年 次	2年次		
開 講 学 期	通年		
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	自自治体教育機関において、共通基礎科目並びに専門科目で学修した事項を受講生のキャリアに応じ、実地で検証し、教育政策トップリーダーとしての力量を高める。		
授業の内容・計画	事前指導	自自治体行政機関の組織や教育大綱・計画や施策について情報収集を行い、教育政策上の課題を整理すると共に、実習課題を設定する。（全員）	
	実習	インターンシップ先において、「マネジメント特論」又は「リーダーシップ特論」で学修した実践的応用力をもとに、施策や事業等の改善に取り組む。（全員）	
	事後指導	インターンシップ先での取組をふりかえり、まとめを行う。（全員）	
成績評価の方法・観点等	1. 成績評価の方法と項目 ・実習における活動の状況や意欲・能力、貢献度などを大学指導教員（50％）並びにインターンシップ先メンター（50％）による観察や実習記録、面談等を通じた評価をもとに総合的に判断する。 2. 成績評価の観点 ・実習生の活動の状況 ・インターンシップ中に発揮された意欲や能力 ・「マネジメント」・「リーダーシップ」の各項目の達成度 ・インターンシップ先への貢献度 3. 到達目標： ・自自治体教育機関において、共通基礎科目並びに専門科目で学修した事項を受講生のキャリアに応じ、実地で検証し、教育政策トップリーダーとしての力量を高めること。		
テキスト・教材・参考書等	・「教育行政マネジメント特論Ⅰ・Ⅱ」及び「教育行政リーダーシップ特論Ⅰ・Ⅱ」のテキスト ・その他実習、協議等に有用な参考資料、文献等はその都度提示する。		
事前事後学修	・インターンシップ先の情報を事前に収集しておくこと。 ・実習のふりかえりとまとめを勤務先等へフィードバックすること。（全30時間）		
そ の 他	・2年次前期の設定であるが、内容、時期等は受講者のキャリアや関心に応じて、オリエンテーション時に相談し決定する。		

授 業 科 目 区 分	実習科目	開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	教育政策トップリーダーインターンシップⅣ（他自治体） （ Internship for top leaders of educational policy— In other local governments ）		
単 位	4単位	担 当 教 員	堀内 昭彦 押田 貴久 日渡 円
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	実習		
標 準 履 修 年 次	2年次		
開 講 学 期	通年		
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	他自治体において、共通基礎科目並びに専門科目で学修した事項を受講生のキャリアに応じ、実地で検証し、教育政策トップリーダーとしての力量を高める。		
授業の内容・計画	事前指導	インターンシップⅡ・Ⅲでの教育政策上の課題を整理すると共に、訪問先の組織や教育大綱・計画などを情報収集し、実習課題を設定する。（全員）	
	実習	インターンシップ先で、実習課題をもとに、行政実務に当たる。（全員）	
	事後指導	インターンシップ先での取組をふりかえり、まとめを行う。（全員）	
成績評価の方法・観点等	1．成績評価の方法と項目 ・実習における活動の状況や意欲・能力、貢献度などを大学指導教員（50％）並びにインターンシップ先メンター（50％）による観察や実習記録、面談等を通じた評価をもとに総合的に判断する。 2．成績評価の観点 ・実習生の活動の状況 ・インターンシップ中に発揮された意欲や能力 ・「マネジメント」・「リーダーシップ」の各項目の達成度 ・インターンシップ先への貢献度 3．到達目標 ・他自治体において、共通基礎科目並びに専門科目で学修した事項を受講生のキャリアに応じ、実地で検証し、教育政策トップリーダーとしての力量を高めること。		
テキスト・教材・	・「教育行政マネジメント特論Ⅰ・Ⅱ」及び「教育行政リーダーシップ特論Ⅰ・Ⅱ」のテキスト ・その他実習、協議等に有用な参考資料、文献等はその都度提示する。		
事前事後学修	・インターンシップⅡまたはⅢを総括し、本実習を充実させること。 ・インターンシップ先の情報を事前に収集しておくこと。 ・実習のふりかえりとまとめを勤務先等へフィードバックすること。（全30時間）		
そ の 他	・実習先及び内容、時期等は受講者のキャリアや関心に応じて、オリエンテーション時に相談し決定する。		

授 業 科 目 区 分	専門科目 教育政策実践領域	開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	教育政策トップリーダーインターンシップⅤ（自自治体等発展） （ Internship for top leaders of educational policy – In administration agencies of self-local government ）		
単 位	2単位	担 当 教 員	堀内 昭彦 押田 貴久 日渡 円
必修・選択の別	選択選択		
授 業 の 方 法	実習		
標 準 履 修 年 次	2年次		
開 講 学 期	通年		
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	院生の所属する自治体（行政・教育機関）組織等において、1年次に履修した科目、特に「教育行政マネジメント特論Ⅰ・Ⅱ」又は「教育行政リーダーシップ特論Ⅰ・Ⅱ」の学習成果の実証実習を行う。対課題行動である「マネジメント」と対人行動「リーダーシップ」について、自自治体組織内で研修を計画し、実施する。「対課題行動」と「対人行動」の視点から、研修を受講した職員の行動に注目し、研修の実践が、現在、進行中の施策の課題解決にどのように作用しているかを検証するとともに、自己の課題研究の遂行も併せて行う。		
授業の内容・計画	第1週	・オリエンテーション ・研修の計画と実施（テキストを用いて演習） ・職員の行動観察・聴き取り	
	第2週	・第1週目の協議、討論、熟議等を実施する。 ・研修の実施 ・職員の行動観察・聴き取り ・振り返り研修の実施 ※研修の実施に当たっては、十分な時間と場所を確保すること。 ※実習中の研修の成果還元は継続的に行われるよう以降の職務に当たること	
成績評価の方法・観点等	・事前の調査・研究、自治体における研修の振り返り 自自治体組織の活性化に関する報告書等・・・・・・50％ ・実習機関、メンターの評価・・・・・・50％		
テキスト・教材・参考書等	・「教育行政マネジメント特論Ⅰ・Ⅱ」又は「教育行政リーダーシップ特論Ⅰ・Ⅱ」のテキスト ・改善策作成に有用な参考文献等は、その都度提示するものとする。 ・指標作成のための既存データ等		
事前事後学修	・自自治体における「マネジメント」及び「リーダーシップ」に関する課題や問題点を洗い出すこと。 ・先行研究論文の検索等を行いインターンシップの充実を図ること。 ・自己の研究の深化がはかれるよう職員の変容をめざし実習を充実させること		
そ の 他	・教育政策トップリーダーインターンシップⅡ・Ⅲの単位を取得したものに限り。		